

ちょっとひといき

手芸店や100円ショップに立ち寄るたびに、ワクワクしながら、いつか作ろうと目的もなく購入したシリコンモールド（シリコンでできた枠）や素材達…。買ったままになった素材達を活用すべく今回は100円ショップのカード入れをレジンで装飾していきたいと思います。いつもはゴールドやシルバーでキラキラさせることが多いのですが、今回はシンプルに着色せずに作成しました。まずはパーツ作りからです。シリコンモールドに透明なレジンを流し込みます。ゆっくり流し込まないと型からあふれてしまうので、量を確認しながら慎重に流し込みます。今回は深さのないモールドだった為、一度に流し込みましたが、深さのある場合は、何回かに分けて都度硬化しながら作成して下さい。固まらない原因になりますので慎重に作業しましょう。レジンに少し空気が入ってしまいました。気泡が気になる方は、爪楊枝など先のとがったもので空気を抜きながら作業すると綺麗に仕上がります。



出来上がった素材をカード入れに仮置きし、イメージを固めます。並べてみると中心の素材が入らず、急遽楕円形の素材を用意しました。仮置きすることで、このような失敗を防ぐことができるので接着前の仮置きをおすすめします。仮置きが終わればその配置通りに接着剤で接着していきます。接着剤は、くっつける素材によって変わりますので必ず使う素材に適しているか確認して選びましょう。接着が終われば次は全体のコーティングです。レジン用のコーティング液があるのですが、残りが少なく代用としてレジンでコーティングしていきます。筆で薄く均等にレジンを塗ると艶がでて綺麗に仕上がります。これをするとしないでは出来上がりに差がでてしまいます。写真の通りできあがりました！！まだ何を作るかは決めていませんが、次号もお付き合いください。



真好由佳

あとがき

7/9(日)に「お客様感謝祭」を加茂川葬祭館で開催いたします。

今回は、プロカメラマンによる「寿永写真無料撮影会」を先着50名様限定でおこないます。ぜひこの機会に、自分らしさがあふれる素敵な一枚を撮ってみませんか？

その他にも終活無料相談コーナー、ご来場の方には様々な特典をご用意しております。完全予約制となっておりますので事前にフリーコール0120-44-5880までお電話にてご予約をお願いいたします。普段は目にすることのない、お葬式の世界を体験してみませんか？スタッフ一同ご来館をお待ちしておりますのでお気軽にお問い合わせください。



出口秀美

万が一の時に、喪主になられる方へ、いざという時に慌てないために事前準備をしっかりと行うことが大切です。

①お葬式の流れ

もしもの時に慌てないために、ご臨終から通夜、葬儀、初七日法要までの流れを把握しておきましょう。

②生前見贈り

生前見贈りとは、生前中に葬儀プラン等を設定し、見積書等を発行するサービスです。葬儀の内容を十分検討出来ることと、事前に費用を把握することで金銭的な不安を解消できます。

③個別相談

ドリーマーでは、ご相談者のご要望を確認した上で、不安な事柄を汲み取りながら不安な点についてお答えします。

お問い合わせ
資料請求

フリーダイヤル
0120-44-5880

365日24時間対応しております。
【通話無料】携帯電話でもつながります。

ドリーマーご自宅出張
無料事前相談実施中 !!

遺言では実現できない新たな相続対策シリーズ②④

令和5年4月27日から始まった「相続土地国庫帰属法」について

『相続土地国庫帰属法』が始まりました。ひと言でいうと、「不要な土地を国に引き取ってもらおう制度」です。ただし、法律や不動産の専門知識がないと、かえってお金や時間を損じます。例えば、どういう知識が必要かというところ…

- ・法律上の「建物」の意味がわかる。
- ・抵当権の確認方法がわかる。
- ・公的書類から土地の用途を確認できる。
- ・所有権界と筆界の違いがわかる。

…これは、必要な知識のごく一部です。国の審査基準を正確に理解するには法律や不動産の専門知識が必要です。(Q&A 令和3年民法・不動産登記法改正の要点と実務への影響の著書 荒井達也弁護士言葉を引用) 審査基準がややこしいのですが、大きく3つ、『ひと・もの・かね』の3要素です。これらを全てクリアできて初めて不要な土地を国に引き取ってもらえます。次回以降、詳しく解説していきたいと思っています。



やまびこグループ
司法書士/行政書士/相続資産コンサルタント
進藤 裕介

役に立つ葬儀の話 Vol.78

終活②

もしもの時に備えての身辺整理や人生の振り返りなど、さまざまな準備をする「終活」。終活は「最期の時をどう過ごしたいのか?」「死後どうしてほしいのか?」自分の気持ちと向き合い、人生の最後に向けてどのように過ごし、どのように迎えるか決めておく難しい取り組みでもあります。「子供にどう切り出してよいのか分からない」「まだ元気だから先の話」「どうすれば良いか分からないし面倒だ」等、興味があっても実行に移せないという人が多いのが現状です。お子さんがいらっしゃるご家庭では、話し合うきっかけがないと、「あとのことは子供が好きなようにすればいい」「子供がなんとかしてくれる?」という考え方になりやすいそうです。子供目線からみても、親と終活について話し合っていないのは、切り出しにくいということがほとんどのようです。

■子供達は遠くに住んでいるが、何かあった時は手伝ってくれるだろうか?

「入退院の手続きや付き添いは?」「認知症や寝たきりになった時、どうするのか?」「もしもの時、病院や施設へのお迎えは?」「葬後の手続きは?」

■年金が少ないので、どちらかが先に死ぬと生活が出来ない?

「自分の資産はどれくらい?」「亡くなった後、生活に必要なお金は?」

■現金がそれほどある訳でもない。

「葬儀や宗教者への費用は?」「現金より、土地や建物の相続が多い場合は困る事に」

■生命保険には入っている。

「保険で全てが賄える?」「申請から受け取れるまでの日数は?」

【終活を行うメリットは親子双方にあります】

■親にとつてのメリット

抱えている不安の解消に繋がります。

子供に遺す財産と私物に対する不安は、事前に子供と話し合うことで解消ができます。

■子供にとつてのメリット

相続対策になり、出費をおさえることができます。

親が亡くなった時、子供が親の遺産を把握していない場合は相続財産の調査が必要になります。相続財産の調査には、書類の発行費用や時間や手間もかかります。



小番英之